

山城ガールむつみの出陣のスズメ 「いざ、次浦城へ！」の巻

次浦城は現在の次浦集落がある台地全体を利用して築かれたと思われます。

集落になってしまっているため、城の形は不明確ですが、北西の角には方形居館やそれを取り巻く区画分けされた曲輪が台地に残っています。また、地名からも当時を偲ぶことができ、主郭と思われる方形居館の所には「城山」、その他周辺には城郭に「馬場小屋」「内小屋」「土橋」「馬場道」などの城郭に関連する字名が残ります。

次浦氏の居城とも伝わりますが、詳細は不明。しかし、次浦城の西側には次浦八郎常盛の屋敷地と伝わる場所もあることから、この次浦の台地全体と次浦氏との関連が指摘されています。

鎌倉時代が終わり戦いが増えると、どこかのタイミングで次浦城が築かれ、改修整備されながら戦国期へと入っていったと思われます。城内には千葉一族のシンボル「妙見」さまが祀られています。

集落の中に保存状態のいい
方形居館が残ってますよ～



次浦氏って？

次浦氏は千葉一族です。詳細は不明ですが、平安時代末期に常盛が次浦を領地として、次浦氏を名乗ったとされます。次浦集落から西に外れた山中に常盛の居館跡とされる場所があり、周囲の地形を削り出し居館を築いたと考えられています。

次浦氏、鎌倉幕府滅亡のとき何してた？

次浦氏は東禅寺（多古土橋）の大旦那だったことが記録で確認できます。さらに鎌倉幕府滅亡の際の戦いで死んだ次浦氏の百日忌法会が東禅寺で営まれていることから、鎌倉幕府滅亡時には次浦氏はこの地においてここから出陣したことがわかっています。

次浦氏、土橋合戦のときは何してた？

建武年間（1331—1336）の頃、多古は千葉胤貞の領地でした。この頃は動乱が多古（多古）一帯に広がっており、次浦城も胤貞の支城だったと思われます。土橋合戦が起きると次浦氏も胤貞方として戦いに参加したと考えられています。その後多古度重なる戦乱が起き、次浦城は城郭として整備されていったのでしょう。

次浦八郎常盛館近くの山中に、「矢指塚」と呼ばれる塚があります。直径5.4m、高さ3m。結構目立ちます。これは常盛が後三年の役（1083—1087）に源義家に従軍して東北へ戦いに行き、凱旋した際に残った矢を埋めたとも、義家が前九年の役（1051—1062）の際に、凱旋の途中、上総の海岸から矢を一本ずつ埋め、ここでちょうど100本になった記念の塚だとも伝わっています。

次浦城の南側から南東方向にまっすぐに延びる道が「馬場道」と呼ばれている道よ！馬で駆け抜けたくなるような道になって、当てもここで馬術の訓練とかをしたかもしれないわね！
たまこも馬に乗って駆け抜けてみたいわ～♡



ぜひ、現地に足をお運びください！

なんと、地元の方と多古城郭保存活用会が次浦城を整備してくれました！！

すごい！すごい！方形居館がキレイ！！



空堀も！
土塁も！

方形居館の曲輪も！

よく見える！

これは行かなきゃ！！



遊びに
きてね♡



多古の新米かあさん
ふつくらたまこ

次浦集落には長屋門などが残っていて、とても素敵な雰囲気です。てくてく歩いて、歴史を楽しんでくださいね♡



山城ガールむつみ